ドーム映像HIRUKO上映プレイベント

水の祀り（まつり）

HIRUKO

さや堂ホール

マルシェの様子

いつもの美術館が
映像とおどりとマルシェの
おまつりで生まれ変わります
来てみて体験して
水の世界へと迷い込もう

映像と舞踏が誘う
美しくも妖しい水の世界

水の祀りは仮想のまつり。
どこにもない、でもどこかにありそうな、そんな世界で水をまつる儀礼。
飯田将茂によるドーム映像作品HIRUKOから切り出された映像空間と、最上和子率いる舞踏家たちによる儀礼の舞が、まつりの始まりを告げることでしょう。
会場に一歩踏み込めば、別世界へと迷い込んでしまった旅人のような気分を味わえるかもしれません。今まで体感したことのない、荘厳で妖しい空間でのひと時をお楽しみください。

美術館ならではの
建築×アート×マルシェ

アートとマルシェが合わさったこの空間では、美味しいものを食べたり飲んだりしながら、新しい形のパフォーマンス表現をゆっくりと楽しむことができます。ネオルネサンス様式の建築空間に呼応した、ここでしか出会えない表現は必見です。

まつりの締めくくりは
参加＆体験型のアート空間で

水の祀りの締めくくりには、その場にいる誰もが参加できます。仮想の儀礼として行われるこのまつりの神聖な空間を、舞踏の舞手だけでなく、そこにいる全ての人が担い手となって作りあげます。
舞踏とは、それ自体が世界と繋がり自分自身と繋がる儀式。滅多に体験する機会の無い舞踏の世界を少しだけ体感しながら、まつりのフィナーレを一緒に彩りましょう。

❖マルシェ参加店舗（予定）❖

豆 nakano×WiCAN（コーヒー）
HELLO GARDEN（ドリンク）
Thymons lab.（フード）
菓子工房のあ（お菓子）
boulangerie dodo（パン）
wine stand pedro（ワイン）
齊藤ぶどう園（ワイン）
千葉陶芸工房（陶芸、ジュエリー、ガラス）

❖その他 詳細はホームページをご覧ください❖

まつりの始まりを告げる舞

2019.2.16（土曜日）

❖開場16:30～　❖パフォーマンス18:00～

千葉市美術館 1階さや堂ホール

入場料

❖大人1,500円　❖大学生1,000円　❖高校生以下500円
「プラティスラヴァ世界絵本原画展 BIBで出会う絵本のいま」観覧チケット（有料）をお持ちの方は200円割引

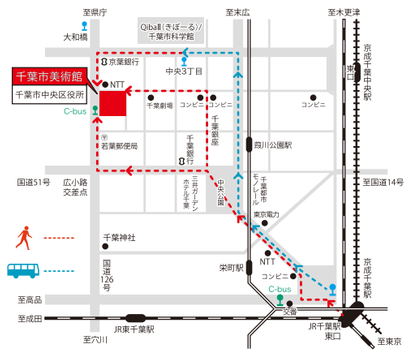
ご予約方法

ホームページより必要事項をご記入の上、お申込みください。
確認メールの返信をもってご予約完了となります。

※ 迷惑メールなどの受信を制限する設定をされている方は、ご応募の前に@ccma-net.jpドメインのメールを受信できるようご設定ください。
※ 事前予約（先着100名）をいただいた方にはオリジナル缶バッジをプレゼントいたします。
※ 予約状況に余裕がある場合は、会場受付にて当日券を販売します。

ACSESS

- JR千葉駅東口より徒歩約15分
- 京成バス（バスのりば7）より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分
- C-bus（バスのりば16）にて「中央区役所・千葉市美術館前」下車
- 千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川（よしかわ）公園駅」下車徒歩5分
- 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- JR千葉駅へは東京駅地下ホームから総武線快速千葉方面行で約42分



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
TEL：043-221-2311（代表）　http://www.ccma-net.jp

❖ドーム映像作品HIRUKOに関するお問い合わせ：HIRUKO制作委員会 fulldome.hiruko@gmail.com

死と生　闇の中に垣間見える霊性

頭上から迫りくる静かなる力

失われた原初の儀礼

情報の中に残存する身体

ドーム映像作品

HIRUKO

映像作家 飯田将茂と、原初舞踏家 最上和子による

ドーム映像作品の制作発表プロジェクト

プラネタリウムの巨大なドームスクリーンを使用し

身体を憑代に、カミを降ろすかの様な原初的な舞いを頭上一面に映し出す。

その空間は全く新しいモノでありながら

まるで遥か古代に行われていた信仰としての儀礼を現代に

引きずり出したかのようにも錯覚させる。

2019年春公開❖各地プラネタリウムにて上映会開催

http://fulldome-hiruko.com/special/01.html

圧倒的な没入感……ドーム映像の魅力

ドーム映像とは、プラネタリウムなどのドーム状のスクリーンに投影される没入型映像のこと。プラネタリウムでは一般的に宇宙科学番組や自然ドキュメンタリーなどの上映が行われるが、昨今では全天を映像が覆う音楽イベントやパフォーマンスをはじめ、映像・アート作品の表現媒体としても注目されつつあり、世界各地でドームを使用した様々なイベントや映像祭が開催され、広がりを見せている。

ドーム映像は、映像表現であると同時に空間表現であるともいえる。その巨大な空間に包まれることで、これまでの映像では表現し得なかった没入感と臨場感を生み出し、観る者の鑑賞体験をより生々しい体験へと変えてくれる。

飯田将茂はこの空間映像における新たな身体表現の可能性に着目する。映像という性質上、肉体の不在を前提とするにもかかわらず、ドームの暗闇に映し出される身体イメージは独特の存在感を獲得する。それはあたかも亡霊が出現するかのように、イメージと生身との間を揺れ動く。この空間映像は、これまでの映像表現ではその文法無しには語り得なかった身体性を、直接的に映像の中に発生させる可能性を秘めている。

飯田 将茂 Masashige Iida

映像作家。玉川大学芸術学部非常勤講師。国内外のプラネタリウムで身体性をテーマとした独自のアプローチによってドーム映像作品の発表を続ける。国外の主要なドーム映像祭にて、日本人初の最優秀賞を受賞。

蠱惑的な世界を生み出す……原初舞踏

舞踏とは何か……それは自身の身体と向き合うことにより、身体の内部深くから溢れてくるものを動きにしていくこと。

それを突き詰める程に、その取り組みは個人を越えた大地の持つ無意識の領域や、生命の歴史に関わって行くこととなる。それは人類の歴史上、古代の人々が持っていたアニミズムなどの原初性を実現することに他ならない。

最上和子の目指す舞踏は、高度なAIやITまたはIoTの登場により、これからますます希薄になっていくであろう人間の身体性をいかに今の時代にふさわしい形で獲得していけるのかを模索している。

それと同時に、日本発祥の舞踏の遺産を引き継ぎつつも、それを更に深め人間の持つ可能性を新たに引き出していく取り組みである。

本作「HIRUKO」においては、“身体性を映像の中に顕現させる”という飯田監督の構想を可能にするために欠かせないものとしてその役割を担っている。

最上 和子 Kazuko Mogami

原初舞踏家。バルハラ稽古場主催。原初舞踏を提唱し『身体』の探求と模索を行い続ける舞踏家。公演・ワークショップ・東京巡礼などの活動をする一方で実践家の立場からの身体論を構築。執筆も手掛ける。